

## はじめに

阿久根市番所丘公園の充実した公園機能と恵まれた外部景観、さらに国道3号に隣接した交通の利便性などにより、キャンプ場施設は、公園全体の利用の活性化を約束するものである。

コロナ禍に伴う社会構造の変化、新しい生活様式の中での暮らしなどにより、自然志向、健康志向の高まりを背景に、キャンプの需要は年々、増加する傾向にある。

加えて、下記要素により、キャンピングカーの普及は顕著であり、本公園内に新たにキャンプ場を増設することは、時宜を得たものと判断される。

### <キャンピングカーの増加要因>

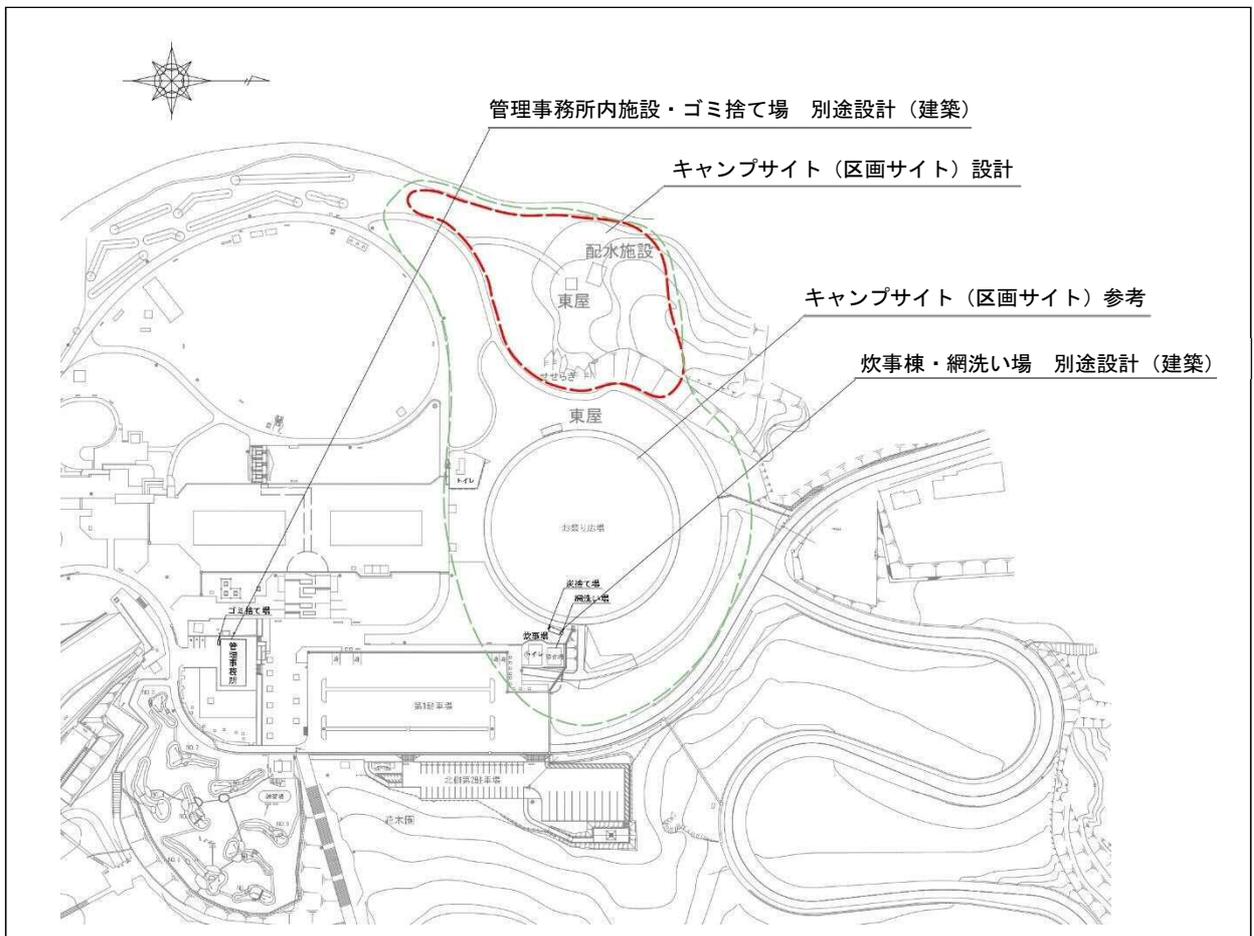
1. 定年退職後の楽しみにキャンピングカーを購入  
(シニアユーザーの増加とジュニア世代の減少)
2. 災害時にも役に立つ
3. ペットも一緒に旅ができる
4. 駐車場があれば就寝可能で、予定にしばられることなく自由旅行ができる

一方、利用を想定される訪問客の形態として

1. キャンプを目的とした訪問利用
2. 旅の途中での訪問
3. 周辺の観光地を訪れるための基地的使用
4. ウォーキング、公園施設利用の際の滞在利用
5. 一定期間滞在し、テレワーク等、避暑地・気分転換の場としての利用
6. イベント開催時の訪問客の宿泊利用

以上のような社会現象を背景とし、この基本設計は、地域の現状を踏まえ、将来性のある施設となるよう現整備の一部改良なども考慮しながら協議検討し、より充実した内容としてとりまとめたものである。

1-1. 業務位置図



## 2-1. 景観構成

番所丘公園は、国道3号から裾野まで約1kmに並行した阿久根市街地南西の丘陵に位置し、北東方向は市街地や紫尾山系、南西方向は東シナ海や甌島など、360度の眺望に恵まれている。

標高は、国道3号は約6mであり、管理事務所のある第1駐車場周辺は標高53m、お祭り広場は56m、さらに敷地の西側、東シナ海の大パノラマを眺望できる縁部位63~67m、配水施設の整備された敷地内で最も標高の高い部位が68m程度で、公園中央部から西の縁に向かって徐々に高度を上げ、敷地西側はおおむね一旦、急崖を呈し、下手の集落に向かって高度を低くしていく地形である。

外部景観は、南西方向に大海原、北東方向に紫尾山を中心とした山並みを後背に、パノラマが開けている。

南側は、整然と整備され、四季折々の風情を楽しめる花壇、点在するサクラなどの公園内景観を楽しむことができる。北側は、市街地越しに熊本の県境付近の矢筈岳を含む九州山地の山並みを遠望できる。

敷地内のそれぞれの視点場からは、紫尾山、甌島、矢筈岳等が外部景観の中心をなしている。



敷地西側の東シナ海景観



敷地東側の紫尾山系景観

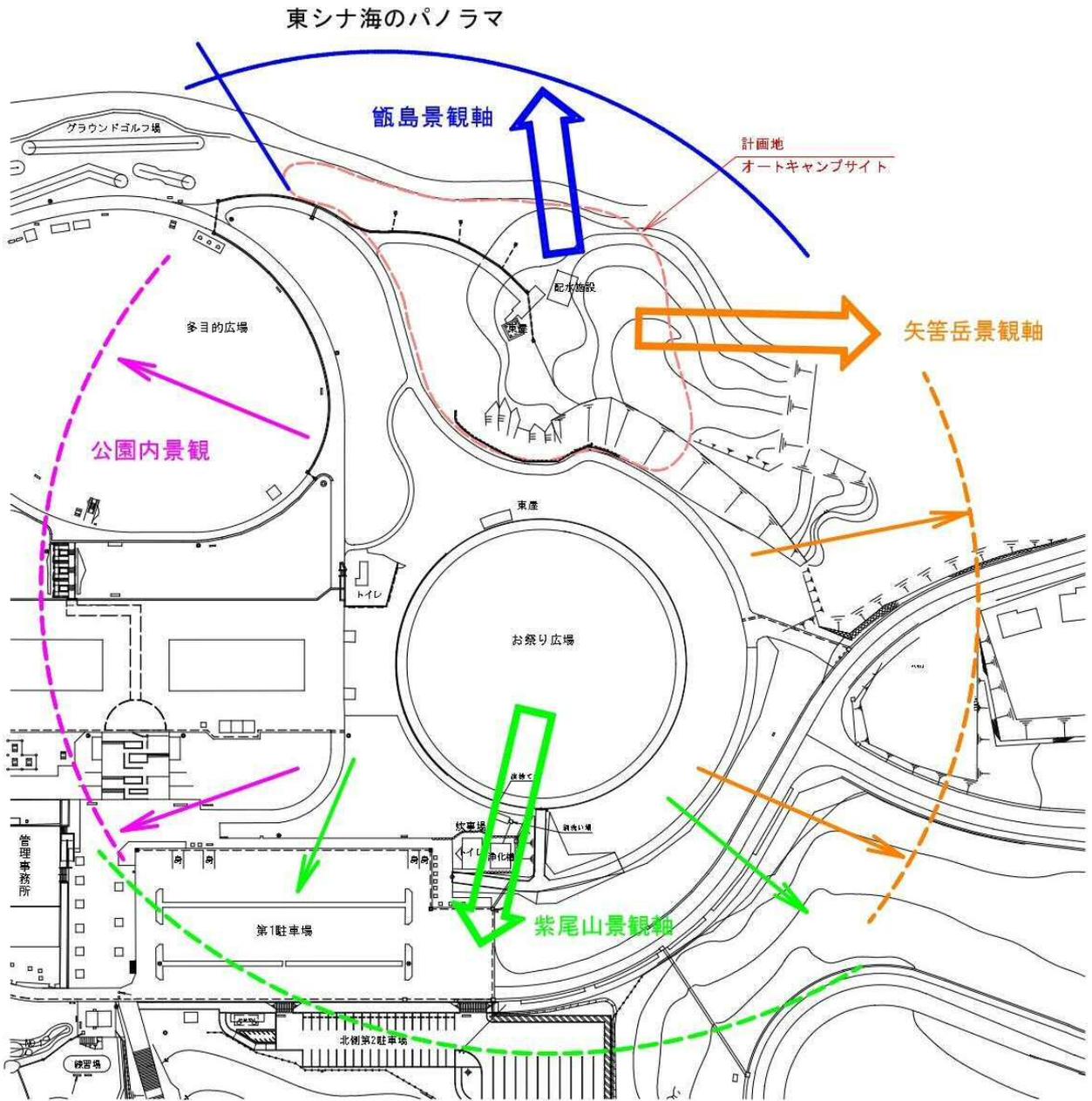
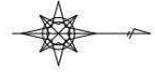


敷地南側の公園内景観



敷地東側の九州山地景観

# 景観構造模式図



### 3-1. 整備方針

「どのようなキャンプ場を作りたいのか」という理念・理想・目標を明確にする必要がある。施設の質的向上とともに、コンセプトを明確にし、他のキャンプ場との差別化を図ることが競争力の強化につながる。

昨今、グランピングというテント設営や食事の準備などの必要がなく、施設側がそれぞれのコンセプトに基づいて楽しさを提供し、ホテルに宿泊するような感覚で利用可能な施設への要望も多くなっている。これに対し、本計画のキャンプ場はキャンパー自体が楽しさを作り上げるという視点での整備計画とする。

#### ① 基本コンセプト

## 公園利用の活発化を図る『参加者による楽しさの創造』 プレミアム感を演出したオートキャンプサイトの整備

#### ② 特性ある整備の実現

コロナ禍を体験し、感染予防の基本的「新しい生活様式」において3密（密接、密集、密閉）の回避が重要なポイントになることはすべての人々が理解する状況となっている。そのような社会的背景に基づき、本キャンプ場の特性として、以下のような形態を取り込んだものとする。

- ・ 明るく開放感があり、風通しや水はけの良い快適なキャンプ場とする。
- ・ プライバシーを守り、長期滞在にも適したテントスペースとリビングスペースを持つ個別化したキャンプサイトで構成する。
- ・ 利用者の誘導が容易で、夜間利用の利便性に最大限配慮したキャンプ場とする。
- ・ 公園施設を楽しみながら、昼間もテント設営が可能な基地的利用のキャンプ場とする。
- ・ ペット同伴者も安心して利用できる施設整備を行う。
- ・ その他、利用者の目線に沿った安全で快適に利用しやすい施設整備を行う。

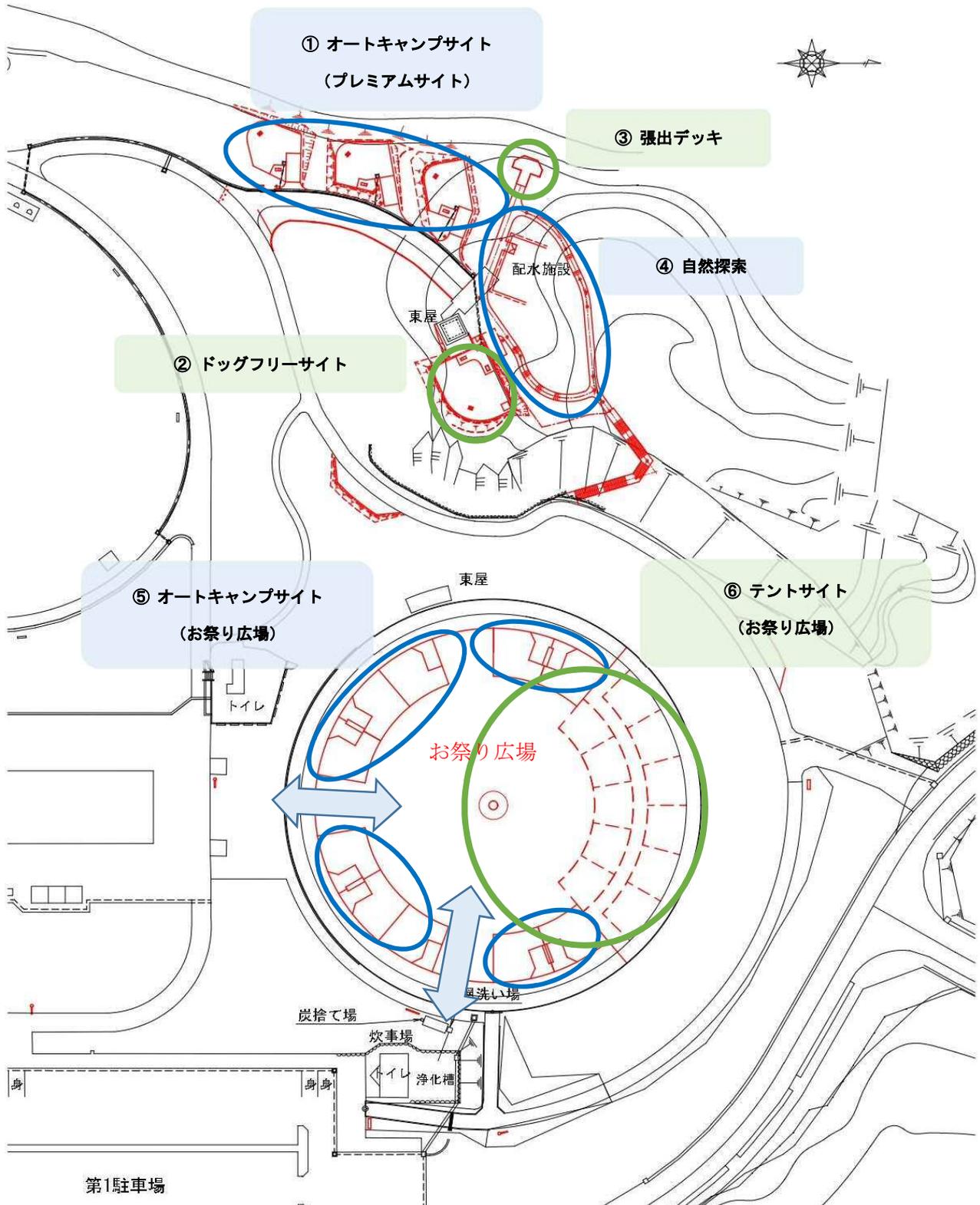
#### ③ 環境保全

現状地形の変更を最小限に抑え、自然環境を極力生かしたキャンプ場とする。加えて地域にゴミと車の公害をもたらすことのないよう配慮したものとする。さらに通常、キャンプ場の共有スペースは責任の所在が曖昧となり、後かたづけがずさんとなった結果、不衛生的な状況が懸念されるため、本計画地（オートキャンプサイト）には、ファイヤーサークルやごみステーションなどの施設導入は行わない。

### 3-2. エリア区分

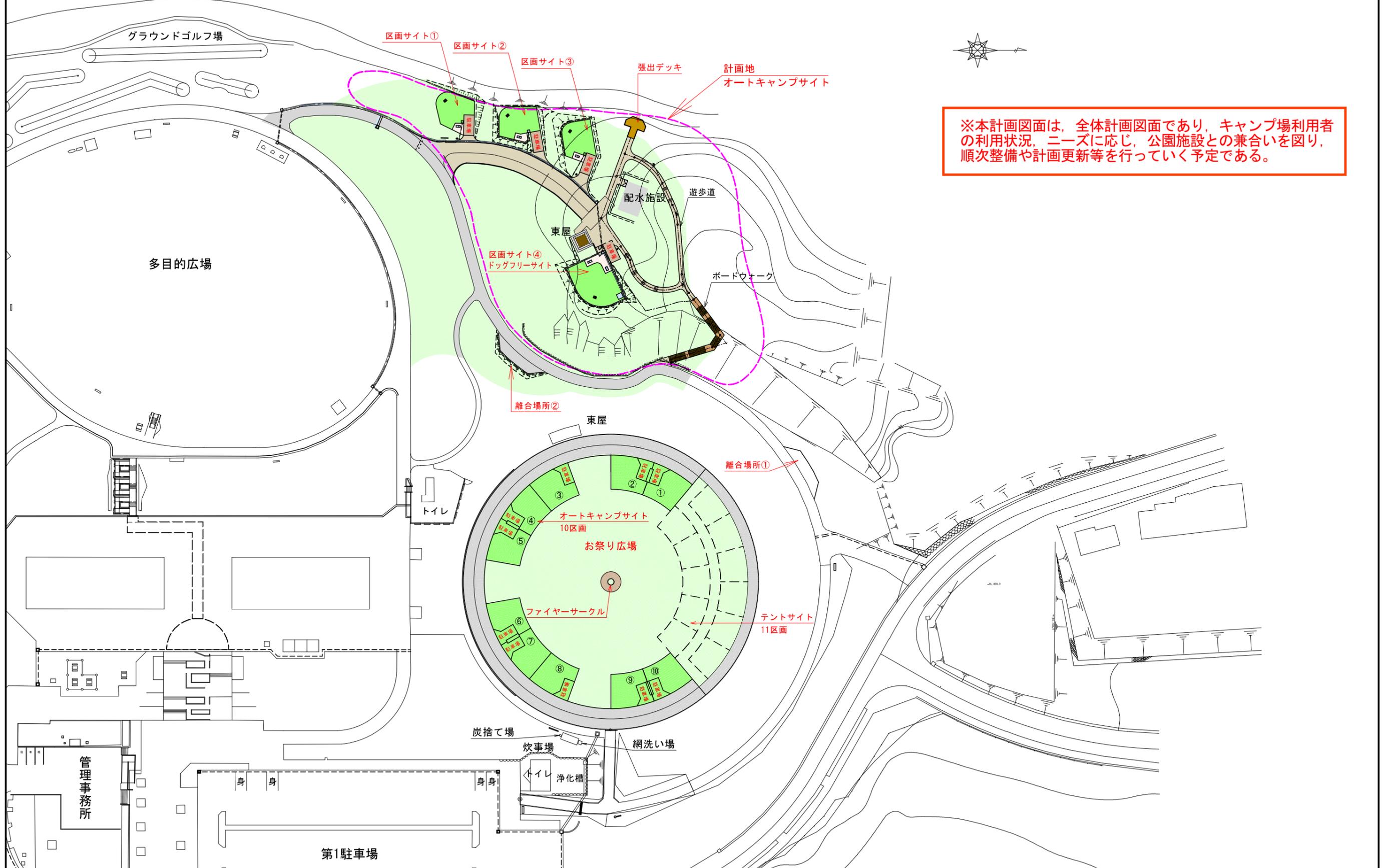
エリア名	導入機能	整備内容
① オートキャンプサイト (プレミアムサイト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大海原のパノラマ眺望</li> <li>・水平線に沈む夕日</li> <li>・甕島、長島の島影眺望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に浸り、海を眺めながら、のんびりと時を過ごすことのできるプレミアム感のあるオートキャンプサイト</li> </ul>
② ドッグフリーサイト (犬と一緒に利用できるサイト)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の公園施設内でのペットとの活動は原則禁止とし、自由に遊ばせることのできる専用広場</li> <li>・ペットのほこりを洗い流す、水を飲ますなど、快適な利用を促す施設導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用者以外とのトラブル回避に配慮した位置に計画</li> <li>・安全かつ快適にペットとの時間を過ごすことのできる施設導入</li> </ul>
③ 張出デッキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮風、海の香り体感</li> <li>・大海原のパノラマ眺望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・潮風を足元から受ける張出しの展望デッキ</li> </ul>
④ 自然探索	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然林を楽しむ遊歩道</li> <li>・海岸線特有の自然植生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去自生していたヤブツバキ、ミツバツツジを補植して思い出通りづくり</li> </ul>
⑤ オートキャンプサイト (お祭り広場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園施設利用をより高める機能</li> <li>・利用者間の交流促進</li> <li>・公園の四季を居ながらにして楽しめるキャンプ場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園中央の花畑を景観として取り込んだオートキャンプサイト</li> <li>・日帰りのキャンプを楽しめるデイキャンプ導入</li> </ul>
⑥ テントサイト (お祭り広場)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドア活動の楽しさを、より高めるための交流促進のための広場</li> <li>・火の持つ魅力を楽しむための安全第一とした限定された施設導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央のファイヤーサークルは火災の起きにくい構造とし、炎、火花などから安全な距離の平場を周辺に整備</li> <li>・ファイヤー使用時外の平場はイベント開催可能</li> </ul>

# エリア区分図



計画平面図  
(オートキャンプサイト・お祭り広場)

A1 S=1:500  
A3 S=1:1000



※本計画図面は、全体計画図面であり、キャンプ場利用者の利用状況、ニーズに応じ、公園施設との兼合いを図り、順次整備や計画更新等を行っていく予定である。